

第6回 コラム集「こどもと共に育つ」

コラム集「こどもと共に育つ」の第6回目になります。こどものひろばで活動し、現在も子どもに関わっておられる方にそれぞれコラムを書いてもらっています。小学校教諭、スクールソーシャルワーカー、社会福祉士、カウンセラー、介護福祉士という様々な立場の5名の方に、日常の出来事や子どもたちを取り巻く環境などそれぞれの目線でコラムを書いてもらっていますので、ぜひご覧ください。感想等もお待ちしております。



夏休みが終わり「2学期が始まるな～」と、なんとも言えない気分の中、記事を書いているつです。

今年の有給夏休みは、静岡へ旅行をしました。まずは“静岡といえば”の「お茶摘み体験」をしました。お茶の葉を「プチっ」と摘む感覚は最高です。また、冬場にお茶の葉に霜がつかないようにするための工夫も知り、新たな発見でした。その農園ではキウイフルーツも栽培されており、スーパーでは見かけないりんごの形など数十種類のキウイを見ることができました。ちなみに、静岡県が日本でキウイを広めた最初の場所って知っていましたか？



毎年旅行するつですが、実際に行って自分の目で見たり聞いたり体験することって大切だな～と改めて実感しました。一方で、そういった体験がなかなかできない家庭もあるということも心の片隅に留めながら。

写真は女優の長澤まさみの好物「炭焼きハンバーグさわやか」のげんこつハンバーグです。めちゃ美味しかったです。長澤まさみのサインも見れました。笑



こんにちは！さとみんです。

毎日暑いので、夏はお家でプールが定番！

今年 3m のプールを購入し、お友達を誘っては休日は水遊びを楽しんでいます。

シャチのフロートもお迎えし、そのまま乗って楽しむのかと思いきや、楽しんでほしいとたくさん作った水風船を、すぐに割りだして、なんとその割れた風船でシャチの飾りつけ…

なんとオシャレなシャチが完成しました。

せっかくの水風船をすぐゴミにして！と言いたくなるころですが、子どもの発想力はすごいな～と、見方を変えると、破れた色とりどりの水風船が宝物のように思えました。

いいプールがあるね！気持ちよさそうだね！と、プールを楽しむ我が子に、笑顔で優しい声をかけてくれるご近所さんのおかげで、ゆったりと子どもの発想力につきあえる夏になりました。



みなさんお久しぶりです！Tです。最近久しぶりに楽習サポートのびのびの活動に参加して懐かしいなあと感じつつ、担当者が変わっても活動をするうえで大切にしていることは変わらないなと感じました。それは、前回書いていた「子どもにとって安心安全を感じられる場や人のつながり」をつくり出すことです。大前提としてこの安心安全をつくり出し、そこから問題解決やそのために必要な学力アップなど+aの部分も一緒にやっていくという感覚なのではないかと思います。

私は、この安心安全の場やつながりのことを“安全基地”と呼んでいます。ちっちゃい子がスーパーで迷子になるのを想像してみてください。その子にとって、スーパーという未知の世界は、様々な新しい興味深い刺激や不安で満ちています。そんな未知の世界の中を、母親（養護者）という安全基地のうしろに隠れながら、新し

い刺激に誘われ、ふらふらと行き安全基地に戻る、またふらふらしているうちに安全基地を見失い迷子になる。このような関係性の中で、子どもは安全基地を感じられるからこそ、不安や刺激に対して飛び込んでいくことができ、失敗してはエネルギー補充してもらうのではないのでしょうか。この安全基地ははじめ、幼児が母親（養護者）との間に形成され、子どもにとって人間関係を構築する上での雛形となります。子どもの行動範囲や社会が広がるにつれてその安全基地（依存先）を増やしていくのではないかと感じていますし、こどものひろばの活動も地域の中の安全基地なのではないかと思います。



本当はまだまだ書きたいことがあるのですが、また続きは次回以降に！



元・山科青少年活動センター（やませい）職員、現・滋賀県湖南市スクールソーシャルワーカーの上原です。今回は、喫煙・器物損壊など好き放題に振る舞う 3 人の男子生徒に困り果てていた中学校との出逢いを書きました。

2 回目の勤務日から、私は生徒たちの登校時に玄関前に立つことにしました。やんちゃな 3 人が捨てたタバコの吸い殻やペットボトルなどのゴミを拾いながら、生徒たちに「おはよう」と挨拶をしていきました。3 人が学校にやって来ると、彼らの居る部屋で一緒に過ごし、度の過ぎた行為を制止したり、どこかに行こうとする時は付かず離れずの距離で付いて行ったり…というように関わっていました。あるとき、3 人が勝手にプールに入ろうと出て行ったのを追いかけて外に出ると、グラウンドに下りる階段に 1 人の男子生徒が座っているのが見えました。体格が大きく精悍な顔立ちの子でしたが、表情は無気力でした。3 人の対応を他の先生たちに託して、私はその子に近づき、「授業中やけど、どうしたん？」と声をかけました。すぐに反応はありませんでしたが、しばらくすると「…おもんないから」と返してくれました。3 年生の生徒でした。学校の何もかもが面白くないし進路もどうでもいい、誰も気持ちを分かってくれないと言っていました。彼に「あいつらの担当なん？」と聞かれたので、「まあそんな感じやけど、それだけじゃないかな」と答えると終わりのチャイムが鳴り、「また声かけるしな」と伝えて別れました。次の勤務日からは先生たちに許可を得て、授業も見回ることになりました。後ろから観察するだけでは邪魔になるので、英語や数学の授業を中心に、何か困っているように見える生徒のサポートもするようになりました。そのうち、生徒たちの顔と名前が一致するようになり、授業を抜けていた彼が私を「ゆうすけ」と名前で呼び始め、それが浸透していきました。（つづく）。



こんにちは、ぴーちゃんです。

夏が終わろうとしています、私の体感としてはこの前 5 月だったよな、となっています(笑)

今回は、ここ最近心に強く残った話を書きます。

先日、とある方のケースを検討する機会がありました。その方は普段から相手に気を遣い、申し訳ないと言うことが多いそうで、できなかったことに申し訳ないと思い、出来ない自分にイライラするとのことでした。

私は"申し訳ない"と書いてしまう、その方の背景や心性について考えていたのですが、とあるベテランの先生が「もしかしたら、その人にとって"申し訳ない"は、我々の思う"申し訳ない"とは違う意味を持つかもしれない」と仰られ、その瞬間、私のケースの見方に新しい指標が作られました。

その言葉が持つ意味だけでなく、"その人にとってのその言葉の意味"を考えることも大切な視点の 1 つだと気づききっかけになりました。

より様々な角度で相手を考えていきたいですね。日々研鑽。

